

コトバカっ!



コトバカ
言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカルっ!

前へ進むコトバ

春はスタートの季節。年をとってから習いごとや勉強を始めることを「六十の手習い」とか「八十の手習い」というけれど、日本の現状を見据えると、もう少し年齢を上げてほしいのかなと思う。

現在、世界最高齢者は男女とも日本人で、ともに百十五歳。お二人がそれぞれ百十五歳になった日の、カメラを意識した挨拶がふるっていた。女性の大川ミサヲさんは「長生きできると思いませんでしたのにな、知らん間にこんなに長生きになって……ほんまありがとうございます皆さん」と笑顔で感謝していたし、男性の木村次郎右衛門さんは「サンキューベリーマッチ、ユアアーベリーカインドマン!」とまさかの英語スピーチ。

実際、何かを始めるのに、九十でも百でも遅すぎることはないだろう。私の座右の銘は「食欲は食べているうちに出てくる」というものだが、これは「とりあえず気軽に始めてみると好きになるかもよ」とって意味。「いつかできることはすべて今日でもできる」といいな。どちらもモンテニユの随想録の言葉だけど、この前向きさはソフトバンクの孫正義さんにつながる。孫さんが今年はじめにつぶやいて話題になった「髪が後退しているのではない。私が前進しているのだ」はまさに金言。

私は手習いとしてイタリア語を長く勉強する中で、最近わかったことがある。私たち生徒の前進度より、イタリア人教師Fの日本語前進ぶりのほうが格段に上だっこと。以前は外国人っぽい片言が初々しかったのに。安直なだけじゃれはオヤジと言われるから気をつけてと私たちが教えたはずなのに。今では渾身のイタリア語ジョークをFにかましても「オヤジギャグ寒い!」と即座に日本語で切り捨てられちゃう。もうがっかり。

こつこのつを「飼い犬に手を噛まれる」とっていいのかな。いや、Fを犬に例えたりしたら「ボクに世話されてるキミたちが犬でしょ!」と流暢な日本語で返されるだけだ。そもそも、イタリア語の授業中に高度な日本語でバトルしてる場合じゃない。私たちも前進しなくちゃ。

あいかわ あい ことばか
相川藍(言葉家)

丸の内文学賞(大賞)、朝日広告賞(最高賞)、インターネット書評コンテスト(最優秀賞)受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。